

引用文献

石川和芳(1981) 常磐沿岸における異常冷水とオキアミ漁場について, 第11回関東・東海ブロック水産海洋連絡会資料.
木幡 孜, 亀井正法(1981) 大冷水塊消滅に伴う特

異海況と相模湾における珍種の漁獲記録, 水産海洋研究会報, 39, 128-130.
上原 進, 岩田静夫(1981) 今年の冷夏に対応する最近の漁海況情報について, 水産海洋研究会報, 38, 82-88.

(3) 1981年の房総近海における漁・海況の特徴

平本 紀久雄(千葉県水産試験場)

1. 1981年前半の漁・海況

1980年末から1981年前半には, 東北・関東(三陸沖~鹿島灘)の太平洋側沿岸域では親潮第一分枝の勢力が強くなり, その先端は犬吠崎沖まで達していた。

そのためか, 常磐~房総沖における冬春季のイワシ類, 伊豆諸島域におけるマサバの漁況は暖冬といわれた前二年(1979年, 1980年)と際立って異なっていた。

i マイワシ

成魚は1978年および1979年の年末(10~12月)にはそれぞれ常磐沖以南へほとんど来遊しなかったが, 1980年には10月半ばから同海域で好漁を呈した。

一方, 1~4月の成魚・産卵群は1979年および1980年には多獲されたが, 1981年にはあまり漁獲対象とはならなかった。

未成魚・越冬群は1979年および1980年には上記の海域にほとんど来遊せず, とくに房総海域では皆無に等しかった。一方, 1981年には1~8月の間, 連続して多獲され, その間の千葉県下主要港への水揚量は1~6月の半年で約50万トンに達し, 過去の最高年間水揚量の2倍に匹敵した。

ii カタクチイワシ

1980年10~11月に未成魚(1980年の夏生れ)が若干量漁獲されたほか, 極端な不漁であった。なかでも, 1981年3~6月には100トン以下の凶漁であった。

iii マサバ

1980年12月~1981年1月の常磐~犬吠崎周辺沖におけるまき網漁業によるサバ漁は前年を上まわり7.3万トン(前年5.5万トン)に達したが漁場が犬吠崎沖以南に広がったため, たも抄い漁業との間に紛争が生じた。

一方, 1981年前半の大室出し漁場を中心としたたも抄い漁業は極端に不振で, 同漁業によるマサバ漁獲量は7.3万トンで前年の56%, 一夜一隻平均漁獲量(CPUE)でも前年の66%に過ぎなかった。たも抄い漁業によるサバ漁不振の第一の原因は海洋条件, とりわけ漁場が近

年まれな低温水に覆われ, サバ群の浮上を阻害したことが考えられる。

iv マアジ

1981年のマアジの来遊量はきわめて少なく, マアジを対象とするいずれの漁業でもきわめて低調な漁況であった。とくに, 体長(尾又長)15~20cmの0~1年魚の出現が少なかった。

v ブリ類

まき網および刺網漁業によるイナダ・ワラサ漁は1978年以降徐々に回復の兆しがあり, 1981年は前年を上まわる漁況を呈した。なかでも, 1年魚の出現量が多い。

2. 1981年後半の漁海況

1981年前半に引続き, 同年後半も東北・関東の太平洋側沿岸域では親潮系水の張り出しが強い。とくに, 常磐沖~鹿島灘における表層水の冷え込みは, 10月下旬現在では1972年以降でもっとも強い。

主要魚種の出現状況をみると, 次のとおりである。

i マイワシ

成魚・南下群の三陸~常磐沖への出現は前年よりもさらに早く, 9月下旬には金華山沖, 10月17日には茨城県大洗沖へそれぞれ出現している。

ii サンマ・マサバ

サンマの南下は早く, 10月中旬には第一群が千葉県太東崎沖まで南下した。また, 10月下旬現在の主漁場は鹿島灘~犬吠崎沖である。

なお, たも抄い漁業による夏サバ漁は前例がないほど長く続き, 7月末まで九十九里沖を中心に安定した漁況を呈していた。

iii サケ

房総半島の沿岸域および河川で, 前年に引続きサケの捕獲の情報が多く見られた。なかでも, 犬吠崎沖で操業する底曳網によって, 10月末で100尾を越す漁獲がみられている。